

沖縄県サンゴ礁保全推進協議会・第14回理事会議事録（案）

- 日時：平成25年10月11日（日）14:00～17:00
- 場所：沖縄県庁4階第3会議室
- 出席（役員）：中野義勝、西平守孝、泡瀬干潟を守る連絡会（桑江直哉）、エコガイドカフェ（猪澤也寸志）、沖縄県自然保護課（富永千尋）、環境省那覇自然環境事務所（中野圭一）、渡嘉敷ダイビング協会（平田春吉）、宮古島マリンリゾート協同組合（新村一広）、八重山サンゴ礁保全協議会（吉田稔）、WWF ジャパン（権田雅之）、沖縄県衛生環境研究所（金城孝一）、沖縄県ダイビング安全対策協議会（案納昭則）
- 委任状：沖縄エコツーリズム推進協議会（花井正光）、梶原健次、木村匡、後藤亜樹、コーラルクエスト（岡地賢）、桜井国俊、沖縄リーフチェック研究会（安部真理子）、NPO 法人グローイングコーラル（上原直）
- 事務局長：神谷大二郎
- 事務局：沖縄県自然保護課（多良間一弘）
- 運営委員：沖縄県環境科学センター（山川英治）
- 議事録署名人：渡嘉敷ダイビング協会（平田春吉） 沖縄県ダイビング安全対策協議会（案納昭則）

役員23中、上記11名の出席者（会長、副会長、理事8名、事務局長）および8名の委任状により、成立要件である理事の過半数を満たしたので成立、内容を協議し決定した。

【アンダーライン部分が理事会での決定事項】

【「・」は説明事項および提言事項】

【「→」は説明事項や提言事項に対する意見】

（1）事務局および各委員会からの報告（資料1）

ア. 事務局からの報告

①サウジアラムコ社からの追加の寄付について

- ・基金の残金と今回の寄付に関する協議は事務局で調整する。
- ・受け入れについては理事かメーリングリスト上で承認済み。

②沖縄県環境科学センターからの寄付について

- ・沖縄県環境科学センターから寄付の依頼があり、受け入れることが承認された。

③後援について

- ・会長専決された後援について報告。

（イ）各委員会からの報告

- ・特に報告はなかった。

(2) サウジアラムコ助成事業審査会からの報告（資料2）

(ア) 審査結果について

- ・審査会から提出された審査結果が承認された。
- ・助成事業について、成果物をクレジット入りで活用できないか検討してはどうか。
→協議会が自由に使えるコンテンツを増やすことは重要。
- ・H25_04 について、法令や規則に基づいた許可が得られない場合は、不採用とし助成金は次年度に繰り越す。

(3) サウジアラムコ社からの寄付に関する調整

- ・調印式と伝達式はサンゴウィーク周辺で日程調整をする。

(4) サンゴ礁ウィークの取り組みについて

- ・おきなわサンゴ礁ウィーク 2014 の実施要領が承認された。
- ・おきなわとなっても、対象は奄美などを含めるとよい。
- ・サンゴ礁学会にも声をかけてはどうか。
- ・サンゴ礁ウィークの期間は厳密に決めなくてもよいのではないか。
- ・準備を行い、関係機関に早めに声をかけられるようにするとよい。
- ・慶良間諸島の国立公園化とも連携できるとよい。
- ・サンゴ礁についての記事をそれぞれの手持ちで書いてはどうか。

(5) 英語版ホームページの検討

- ・英語版ホームページを作成することが承認された。
- ・全てのページではなく、できる範囲で作成する。

(6) サウジアラムコ助成事業審査要領の改訂・AED・酸素キットの購入

- ・申請者を増やすことが重要。
- ・活動の種類別に振り分けることで、申請者が不利な状況になる場合があるため、申請は振り分けない。
- ・採点は減点方式で評価する。
- ・「評価項目に1つでも0点があったら不採用」、「予算を考慮し採択を決定する」など、採択の最低基準を審査要領に盛り込む。
- ・AED、酸素キットは定期的なメンテナンスが必要で、事故が起こった際責任問題に発展する可能性があるため、購入はしないことが決定された。
- ・応募要件に安全管理について十分考慮することを明記してはどうか。
- ・審査要領については、引き続き検討する。

(7) 広報委員長の任命について

- ・後藤理事より広報委員長辞退の申し出があり、新しい広報委員長に藤田理事が任命された。